

しまね棚田ネットワーク の取組【提案】

島根県農林水産部農村整備課

■ しまね棚田ネットワーク

● 目的

棚田保全活動や都市住民との交流活動を効率的に行い、地域間相互の情報交換を行い、保全活動や交流活動の推進を図る

● 目標

・ 定期的な情報交換、現地視察、検討会を開催し、棚田地域相互のネットワーク化を図る
・ ネットワークを活用した地域間相互連携交流イベントの開催

しまね棚田ネットワーク
(H21年度設立)

● 構成メンバー

- ネットワークへの参加は自由。当面中山間ふるさと水と土基金事業で支援を行っている棚田地域の保全団体、関係市町、関係県機関、島根県土地改良事業団体連合会
- 棚田14地域（R7.10時点）で構成。

■ しまね棚田ネットワークの活動

● 活動内容

- 情報交換会（毎年1回）
- 全国棚田（千枚田）サミット参加（毎年数名）
- しまねふるさとフェア参加（広島市 棚田・棚田米PR）
- 「しまね棚田元気ネット」棚田イベント情報のプレスリリース
- しまね棚田カード作成・配布（平成30年度作成 令和元年度配布開始）
- しまねの棚田シンボルマークの作成（販売時に袋等へ貼付）
- パンフレット「しまね棚田めぐり旅」について
- 情報提供



■ ネットワークを活かしたこれからの取組

- しまねの棚田地域、そして、みなさんの地域が元気になることができる取組を一緒に考えていきましょう。

「しまねの棚田ネットワーク」について

■目的

島根県には「つなぐ棚田遺産」に選定された11の棚田をはじめ多数の棚田が存在し、それぞれの地域において、棚田の保全活動や都市住民等との交流活動などが行われています。

地域間相互の情報交換や意見交換を行い、あるいは活動手法を検討する場を設けることにより、保全・交流活動をより効率的・効果的に行うことが可能となります。

このため、関係団体・機関等により構成する「しまねの棚田ネットワーク」を設置し、定期的に情報交換、現地視察、検討会等を開催することにより、棚田地域相互間のネットワーク化を図っています。

将来的には、このネットワークを活用した地域間の相互連携による交流イベント（棚田ツアー等）の開催等へと発展させたいと考えています。

■構成メンバー

ネットワークへの参加は自由とし、できるだけ多くの関連団体の参加を期待しています。

なお、現在は次表に掲げるとおり、中山間ふるさと水と土基金事業で支援している棚田地域の保全団体等により構成します。

棚田地域等	関係市町	関係県機関等	備考
山王寺本郷	雲南市	雲南県土整備事務所	
大原新田	奥出雲町		
追谷			R1参加
いわけ			R4参加
神谷	邑南町	県央県土整備事務所	
上田・平佐	大田市	大田事業所	
佐津目(子ご美の里)			
西田(ヨズクの里)			
都川	浜田市旭支所	浜田県土整備事務所	
来尾			
坂本			H30参加
室谷	浜田市三隅支所	益田県土整備事務所	
中垣内	益田市		
大井谷	吉賀町		
		松江県土整備事務所	
		出雲県土整備事務所	
		隠岐支庁県土整備局	
		本庁農村整備課	
		島根県土地改良事業団体連合会	
14地域	7市町	10機関	

■情報交換会開催地

H22年度 大井谷（吉賀町）

H23年度 子ご美の里（大田市山口町）

H24年度 山王寺（雲南市大東町）

H25年度 現地開催なし

H26年度 ヨズクの里（大田市温泉津町）

H27年度 神谷、上田・平佐（邑南町）

H28年度 都川（浜田市旭町）

H29年度 山王寺（雲南市大東町）

H30年度 室谷（浜田市三隅町）

R1年度 子ご美の里（大田市山口町）

R2～4年度 未開催

R5年度 ヨズクの里（大田市温泉津町）

R6年度 いわけ（奥出雲町）

R7年度 西部（浜田市）

第30回 全国棚田サミット

千枚田

in 別府

～ 棚田でウエル 想いと願いをコメて ～

ご案内資料



大分県別府市にはつなぐ棚田遺産に選定された5箇所の棚田(天間棚田、堂面棚田、内成棚田、大所棚田、東山の棚田群)があります。棚田は食料生産、伝統・文化、美しい景観、教育、国土保全など様々な機能を持っていますが、人口減少や高齢化の影響、地理的不利性などの理由により、棚田の保全はもとより地域コミュニティの維持が困難な状況になってきています。

全国の棚田関係者と先進事例の共有や、課題についての意見交換を行うことで、棚田の魅力を再発見し、棚田に関わることでより良い生活、人生につながることを発信するために、「第30回全国棚田(千枚田)サミット」を開催します。

令和7年

11月1日(土) 2日(日)

開催地: 大分県別府市

会場: 別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)

主催: 全国棚田(千枚田)連絡協議会

主管: 第30回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会

別府市



©竹内康訓

内成棚田

【参加募集期間】

令和7年8月22日(金)まで

全国棚田(千枚田)サミットウェブサイト
<https://www.city.beppu.oita.jp/sangyou/nourinsuisan/tanadasummit.html>



問い合わせ先: 第30回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会事務局

〒874-8511 大分県別府市上野口町1番15号(別府市役所 農林水産課内)

TEL:0977-21-1133 FAX:0977-23-0552

事例発表

内成棚田の保全維持活動について

内成棚田の会 後藤利夫氏

シンポジウム

全国棚田(千枚田)サミット30回記念シンポジウム

【コーディネーター】

早稲田大学名誉教授 棚田ネットワーク名誉代表 中島 峰広氏

全国棚田(千枚田)サミット30回を記念し、過去のサミットを振り返りつつ、今後の棚田の保全・維持について話します。



第1分科会

棚田ツーリズムの未来形～観光・健康・地域再生をつなぐ～

【コーディネーター】 別府大学 講師 齋藤 圭氏

棚田の自然・文化・温泉資源を活かし、観光とウェルネスを融合した新しい体験を創出することで、地域に人を呼び込む持続可能な仕組みを議論・提案する分科会です。登壇者の専門性を活かし、科学的・実践的・経営的な観点から、別府ならではの棚田観光の未来像を描きます。



第2分科会

いま 石垣の記憶、内成の現在～棚田から読み解く別府の景観史～

【コーディネーター】 別府大学名誉教授 飯沼 賢司氏/別府大学准教授 赤松 秀亮氏

かつて市内各地に広がっていた棚田の風景は、都市化や観光地化の進行とともに姿を消しました。本分科会では、「石垣の記憶、内成の現在」をテーマに、石垣地区の失われた棚田景観と、今なお内成地区に残る棚田を手がかりに、別府の景観史を読み解きます。かつてと今の風景を比較しながら、別府という土地の変遷と、その背景にある人々の営みに迫ります。



第3分科会

農村と都市をつなぐ“おいしい交流”～棚田の風景を味に変える～

【コーディネーター】 桃山学院大学 准教授 大坪 史人氏

都市農村交流やグリーンツーリズムが盛んになり30年余りがたちました。そのなかで道の駅が発展し、様々な地域活性化の特産品が生まれてきました。そこで今回は、棚田地域における酒づくりや直売所について今一度考えていきましょう。



第4分科会

スマート農業で次世代に残したい農の豊かさ

【コーディネーター】 千葉大学 助教 濱 侃氏

技術革新による省力化・高効率化を基盤とした農業は、土地条件が良いところでの大規模経営に限らず、小規模経営でも活用でき、地域の風土を維持する農の営みを支える基盤技術としての側面もあってよい。先端技術と文化が融合した持続可能な農業の未来と、それによって次世代に残したい「農の豊かさ」を議論します。



令和7年7月29日

報道発表

浜松市 産業部
農地整備課 団体指導グループ

TEL: 053-457-2355



浜松市

(仮称)第31回全国棚田(千枚田)サミット in はままつ 第1回実行委員会・運営幹事会 合同会議の開催について

令和8年に開催を予定する「(仮称)第31回全国棚田(千枚田)サミット in はままつ」に向け、第1回実行委員会・運営幹事会 合同会議を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。ぜひ取材方よろしくお願いたします。

記

- 日時 令和7年8月1日(金) 午前10時00分～
- 会場 浜松市役所 8階 全員協議会室
- 出席者 農業関係者、商業観光関係者、有識者、行政など
- 内容
 - ・棚田サミット開催計画(案)
 - ・令和7年度の事業計画(案)
 - ・棚田サミットの開催テーマについて など
- その他 取材を希望される場合は、事前に農地整備課 団体指導グループ(053-457-2355)までお電話ください。
- 6 浜松の棚田



大栗安の棚田



久留女木の棚田



白櫃の棚田

使ってみよう!
外国人にも
日本人にも
わかりやすい

「やさしい日本語」
にほんご

1/1



SDGs 未来都市・浜松
市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」

しまねふるさとフェア 2026

企画案

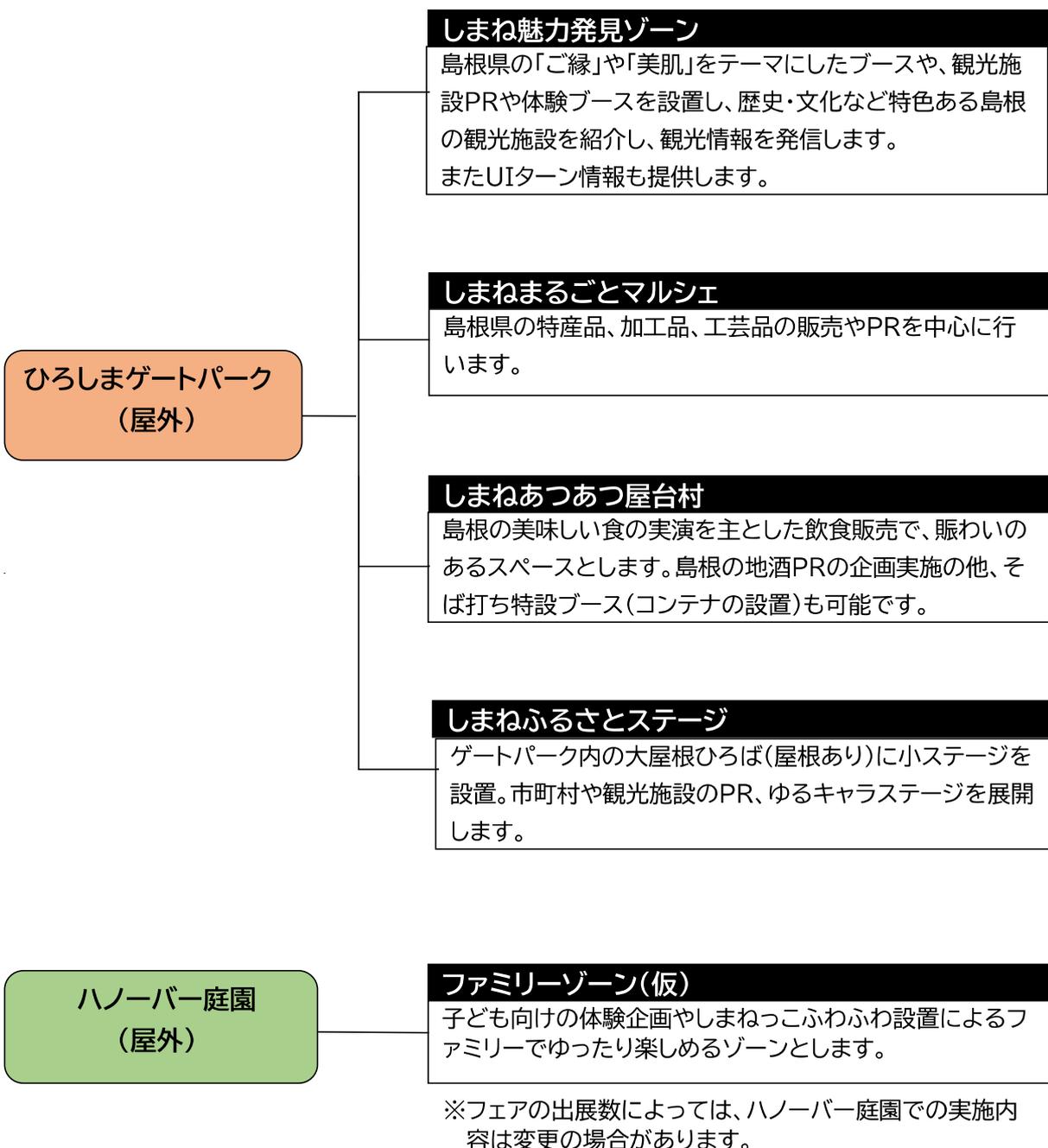
広島地区観光情報発信事業実行委員会

しまねふるさとフェア開催概要

- 1 名 称 しまねふるさとフェア2026
- 2 目 的 隣接県であり、県外観光客入り込み数のトップを占める広島県において、島根県各地域の魅力や観光資源等を紹介する観光PRイベント「しまねふるさとフェアを開催することにより、島根県と広島県のより一層の交流促進を図ることを目的とします。
島根県の観光情報の発信を物販や飲食の集客力も活用しながら行い、島根県のPRやイメージアップ、観光誘客につなげます。
- 3 主 催 広島地区観光情報発信事業実行委員会
- 4 開催日時 2026年1月17日(土) 10時~17時
18日(日) 10時~16時30分
- 5 会 場 ひろしまゲートパークプラザ(広島市中区基町5-25)
- 6 テ ー マ ご縁も、美肌も、しまねから。
- 7 企画の
ポイント
 - ・フェアを通じて「来場者」の「観光客」「定住者」へのシフトを目指します。
 - ・広島市中心部のアクセスに優れた会場の集客力を活用し、従来の島根ファンはもちろん、初めての来場者に島根県各地域の魅力に触れていただき観光資源等を紹介する機会とします。また行動力や発信力のある若年層や女性層を中心としたアクティブユーザーへの訴求を意識し、新しいターゲットの開拓につなげます。
 - ・特産品販売や飲食等の食を通じた島根の魅力を広島で伝えるために、ふるさとフェアをPRの場として活用する意欲のある出展事業者を支援します。

会場実施計画 会場構成

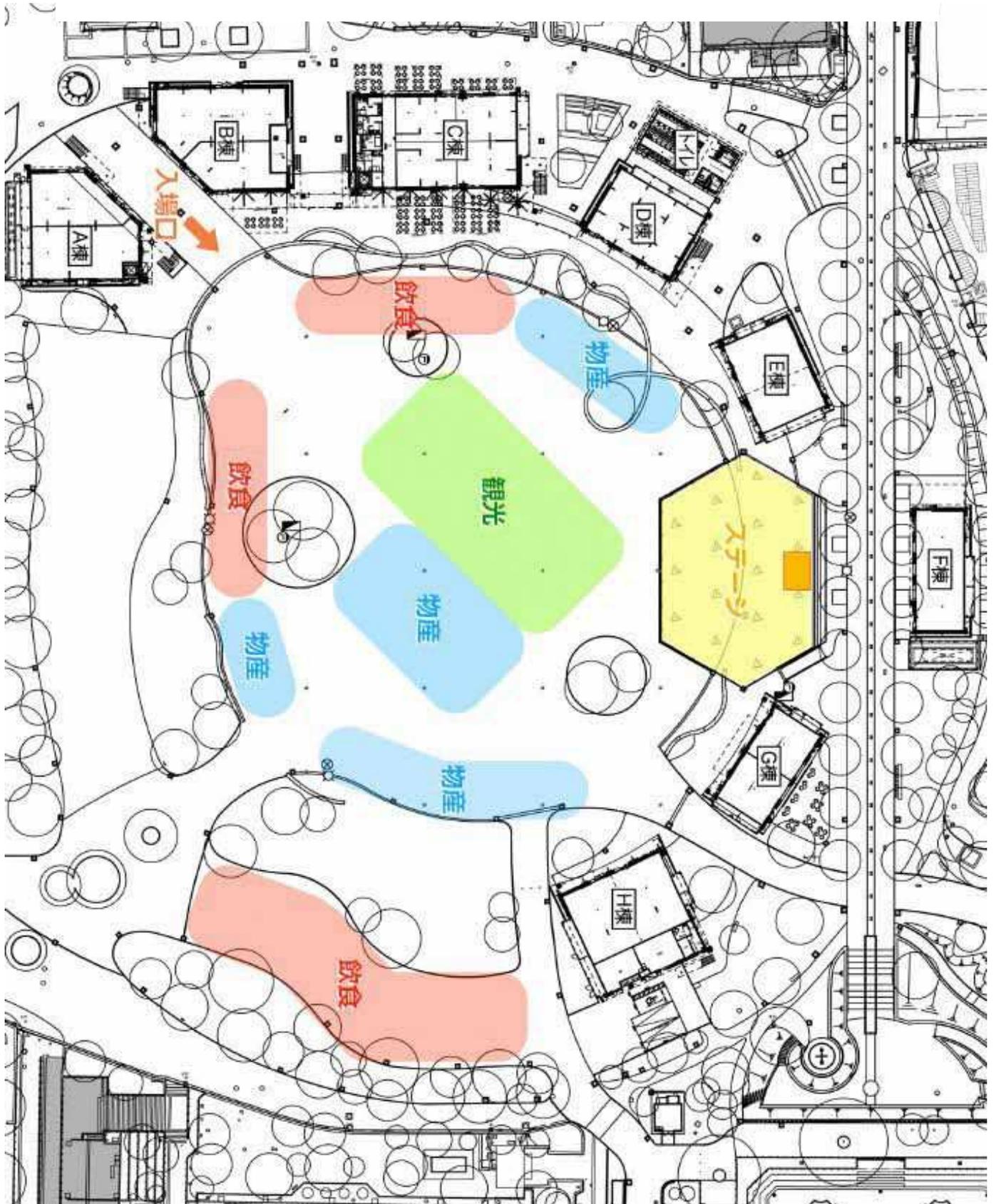
※名称は仮称です



会場周辺地図



広島ゲートパーク 会場 ゾーン分け(想定)



①しまね棚田カードの活用例

●棚田保全支援活動への参加者、棚田訪問者にカードを配布

- ・田んぼの学校参加者
 - ・道の駅での棚田米購入者
 - ・棚田オーナー、トラスト会員
 - ・棚田ウォーキング参加者 など
- (しまね棚田元気ネットで公開)



●各棚田で開催される「棚田まつり」等にカードを持参すると、特典が受けられる (しまね棚田元気ネット掲載)

●カード所有者が各地を訪れ、特典を受けるとともに、地域の農産品などを購入

地域を訪れる人が増え、地域にお金が落ちる

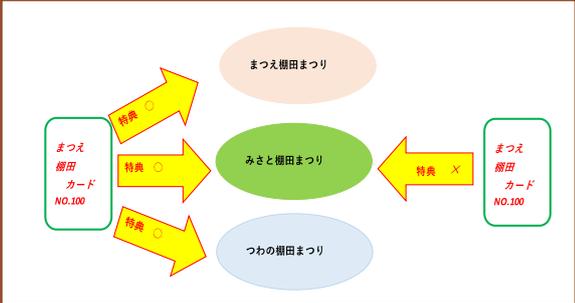
②棚田まつり等での特典

●各組織で特典を用意 …… ex 棚田米(100g)、柿2個、そば販売2割引など (具体的な特典は各組織で検討)

●各組織で用意された「特典」は実績に応じて 県が助成

棚田まつり等終了後、実績を県に提出。確認後県から支払い

- 【留意点】**
- ・特典が高額にならないこと
 - ・特典は棚田地域で収穫された農産物若しくは加工品であること
 - ・ラベルや小袋など必要な資材等は県で負担
 - ・国の棚田カード(山王寺、大井谷)持参者も特典の対象とする
 - ・特典に対する県の支援は、**3年後に見直し**を行う
 - ・**1棚田地域で受けられる特典は1人1回のみ**(カード番号を控える等)



(参考) 全国棚田行脚！キャンペーンの概要

※R7.9.30時点の想定内容であり、今後変更となる可能性がある。

資料 5

<取組案の概要>

- ・スマートフォンの位置情報を使用して、全国の棚田地域を訪れることでスタンプが獲得できるような**デジタルスタンプラリーを実施**する。
集めたスタンプについては、スタンプ数に応じて右表のような**記念品と交換**できるようにする。
(キャンペーン期間は令和8年7～11月を想定。記念品は抽選制を想定。評判が良ければ次年度の事業実施も検討する。)
- ・デジタルスタンプラリーは、スタンプ獲得機能だけではなく、棚田の情報確認機能や棚田カードのアルバム機能、スタンプ数ランキング機能など、多数の機能を設け、ユーザーの長期的な利用を促進する。
(実際に盛り込む機能については、予算との兼ね合いを見て決定。)
- ・記念品については、各規定ポイントごとに複数の品物を設け、ユーザーの好みに合うものを選択できるようにするが、中身は検討中。

棚田スタンプ数	記念品案 (ポイントに応じてデジタル棚田アンバサダー認定証(金、銀、銅)も授与)	数量
2	・つなぐ棚田遺産シール	1,000
7	・つなぐ棚田遺産ピンバッジ ・棚田米 1kg	200 100
15	・農林水産省公認棚田人Tシャツ ・つなぐ棚田遺産トートバッグ ・棚田米を使用した日本酒 4合瓶	50 50 50
30	※今後検討※	25

<予想される効果>

- ・記念品をインセンティブとした、全国の棚田地域への観光者数の増加。また、それに伴う関係人口の増加、地域経済の活性化及び中山間農業への理解促進。
- ・参加者の自発的な発信による棚田に係る情報発信効果。

<参考となる取組>

- ・食文化を知ろう！日本全国スマホでスタンプラリー文化庁が主催で実施。100年フードや食文化ミュージアムに関連する飲食店、観光施設、博物館、道の駅等をめぐり、位置情報を使用してスマートフォンでスタンプを集める。集めたスタンプ数に応じて抽選に応募できる。
(<https://www.bunka.go.jp/seisaku/shokubunka/foodculture/hyakunenfood/stamp rally/>)

<記念品イメージ>



つなぐ棚田遺産
ピンバッジ



棚田米を使用
した日本酒



棚田米



つなぐ棚田遺産シール

中山間ふるさと水と土基金事業について

島根県は、中山間ふるさと水と土基金を造成（国1/3、県2/3）し、中山間地域の活性化のための地域住民活動を支援しています。

中山間ふるさと水と土基金は、「中山間ふるさと水と土保全対策事業（水と土基金）」と「中山間ふるさと水と土保全推進事業（棚田基金）」の2つから成り、それぞれの基金の活用についての御相談は、お近くの県土整備事務所等へお問い合わせください。

なお、本基金は市町村が直接活用することはできません。

1 中山間ふるさと水と土保全対策事業（水と土基金）

(1) 水と土基金の概要

水と土基金は、農地や水路・農道・ため池等の土地改良施設が持つ多面的機能の発揮とこれらを保全・整備する地域住民活動（保全活動、交流活動）を支援するものです。

対象地域：5法指定地域

（過疎・山村振興・半島振興・離島振興・特定農山村法のいずれかを含む地域）

(2) 水と土基金を活用した活動事例

(1) 調査研究事業

- ・農地の荒廃や土地改良施設の老朽化等の現状把握と診断・評価を行い、農地や土地改良施設等地域資源の計画的・効率的な維持管理手法を検討
- ・畦畔除草に係る労力省力化のためのカバープランツ実証実験
- ・地域住民でも取り組める簡易なため池応急整備の実証実験を行い、事例集を作成
- ・生き物調査やマップ、図鑑の作成及びこれらを活用した環境保全活動（写真1）
- ・耕作放棄地解消に向けた水土里情報システム（地図情報）の利活用検討

(2) 推進事業

- ・ため池の安全啓発や維持管理の看板作成、設置(写真2)
- ・農業農村の大切さや農業農村整備事業の役割についての小学校への出前授業



(写真 1) 小学校での観察学習



(写真 2) ため池啓発看板

2 中山間ふるさと水と土保全推進事業（棚田基金）

（１）棚田基金の概要

棚田基金は、棚田地域の住民が、都市の皆さんの参加を得ながら取り組む棚田保全の活動を支援するものです。

棚田地域とは：階段状に広がる地形勾配が1/20以上の農地（＝棚田）が全体農地面積の半分以上ある地域。

（２）棚田基金を活用した活動事例

（１）都市と農村の交流促進

- ・棚田体験、交流イベントの開催（山王寺「たんぼの学校」）(写真1)
- ・棚田散策のための遊歩道の整備
- ・棚田オーナー制度、トラスト制度の支援（オーナー田の湧水処理、オーナー・トラスト募集用チラシの作成）

（２）棚田の情報発信・広報

- ・棚田地域をPRするパンフレットの作成
- ・看板の設置（棚田を紹介する看板、主要道路から棚田まで誘導するための案内看板）

（３）棚田と棚田の交流促進

- ・棚田保全に取り組む地区が連携し、棚田保全対策などを協力して実施する「しまねの棚田ネットワーク」の設立、運営（写真2）



（写真1）R7山王寺 たんぼの学校



（写真2）R6 棚田ネットワーク情報交換会

3 水と土基金・棚田基金の問合せ先（活動支援の説明、相談）

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ○松江県土整備事務所農林工務部(農村整備課 | ☎0852-32-5650) |
| ○雲南県土整備事務所農林工務部(ほ場防災課 | ☎0854-42-9542) |
| ○出雲県土整備事務所農林工務部(農村整備課 | ☎0853-30-5567) |
| ○県央県土整備事務所農林工務部(農村整備課 | ☎0855-72-9555) |
| 大田事業所(農村整備課 | ☎0854-84-9767) |
| ○浜田県土整備事務所農林工務部(農村防災課 | ☎0855-29-5597) |
| ○益田県土整備事務所農林工務部(農村整備課 | ☎0856-31-9600) |
| ○隠岐県土整備局 農林工務部(農村整備課 | ☎08512-2-9644) |

【水と土基金】

水田の汎用化に向けた既設暗渠排水の活用方法
実証実験【松江市鹿島町、雲南市掛合町】

水田をフル活用して、麦・大豆等の戦略作物や地域振興作物を栽培していくなかで、畑作物の生産性向上が求められており、水田では、より一層の排水性改善や水管理の効率化を行っていく必要がある。

一方、島根県内のほ場整備済み水田の多くは、昭和時代に整備を終えており、整備後相当の年数が経過しているため、経年変化による暗渠排水機能の低下が懸念されていることから、暗渠排水機能が低下した水田において、水管理機能の追加と排水機能の回復に向けた整備手法を検証することとした。

事業目的(1/3)

【現状】
旧土壌の経年変化により、暗渠排水機能低下が顕著な水田が多数存在。
新平定水による排水機能の低下が顕著な水田が多数存在。
今後、暗渠排水機能を回復し、排水性の改善を図っていくためには、排水性の向上が重要。

【課題】
農地排水の持続化や排水不足、
社会を継続するためには、
水田の排水機能を向上させ、排水性の向上を図ることが重要である。

事業目的(2/3)

【課題】
農地排水の持続化や排水不足、
社会を継続するためには、
水田の排水機能を向上させ、排水性の向上を図ることが重要である。

事業目的(3/3)

【課題】
農地排水の持続化や排水不足、
社会を継続するためには、
水田の排水機能を向上させ、排水性の向上を図ることが重要である。

案設計山図
(掛合町雲南地区 活性化土山間地区)

農村環境調査【江津市市山地区】

保全活動で復田したやぶさめの棚田周辺にはイチョウウキゴケ、ケラ、ドジョウ等が多くみられるほか、やぶさめのため池はモリアオガエルの産卵場所になっている。また隣接する江尾地内の排水路にはオヤニラミ等の希少種が発見されるなど、生物資源が多く存在している地域であり、市山環境協議会ではこれらの生物資源の保全やその活用を通じて地域の活性化を図る方針である。

①生き物調査、②生き物マップ(保全マップ)等作成、③ワークショップ等を行い、今後の活動に活かしていく。また、この調査結果を踏まえ、生態系に配慮した水路等の保全事例となる本地区の整備手法を、類似の他の農地・水組織へも普及していく。

ワークショップ

生きもの調査

生きもの図鑑

生きものマップ

中山間地域における畦畔法面除草作業
省力化の検証【安来市赤屋地区】

中山間地域における営農においては、除草作業に多大な労力を要し、近年の急速な過疎・高齢化の進行もあり、除草作業の負担が耕作放棄地の発生・増加の要因となっている。そこで、除草作業の負担を軽減するため法面に土壌硬化剤を添加する実証試験を行い、その抑草効果を検証し、防草対策として導入に結び付けたい。

固化材混合

法面転圧

完成状況

ふるさと水と土指導員全国研修会

農地や農業用水など農村地域を保全・活用するための地域住民活動(保全活動、交流活動など)の指導、助言を行う人材(ふるさと水と土指導員)の育成、能力の向上等を目的として実施される「ふるさと水と土基金全国研修会」に棚田保全組織や農地・水保全管理支払交付金の活動組織等の地域住民組織のリーダー的立場の方を派遣し、その後の地域住民活動に活かされています。

近年の参加状況

- 平成24年度 2名
- 平成25年度 1名
- 平成26年度 1名
- 平成27年度 8名
- 平成28年度 1名
- 平成29年度 2名
- 平成30年度 1名

ふる水指導員登録数

75名(R7年3月末)

修了証書

鳥取県 敬

第22回ふるさと水と土基金全国研修会において所定の全課程を修了したことを証する。

平成30年2月2日

ふるさと水と土基金全国研修会
全国水と土基金ネットワーク
事務局 鳥取県農林水産部農林政策課

二階 敬

研修修了証

研修会の様子

【棚田基金】

しまねの棚田ネットワーク

島根県には「日本の棚田百選」に選定された7つの棚田をはじめ多数の棚田が存在し、それぞれの地域において、棚田の保全活動や都市住民等との交流活動などが行われています。

この保全活動・交流活動をより効率的に行う上で、地域間相互の情報交換や意見交換を行い、あるいは活動手法を検討するため、関係団体・機関等により構成する「しまねの棚田ネットワーク」を設置し、定期的に情報交換、現地視察、検討会等を開催することにより、棚田地域相互間のネットワーク化を図っています。

棚田ネットワーク参加団体

棚田地域等	関係市町	関係県機関等	備考
山王寺	雲南市		
大原新田	奥出雲町	雲南県土整備事務所	
遠谷			
いわけ			
神谷	邑南町	県央県土整備事務所	
上田・平佐			
佐津目	大田市	大田事業所	子ご美の里 ヨズクの里
西田			
都川	浜田市旭支所	浜田県土整備事務所	
表尾			
坂本	浜田市三隅支所		
産谷	益田市	益田県土整備事務所	
中垣内	吉賀町		
大井谷		松江県土整備事務所 出雲県土整備事務所 隠岐支庁県土整備局 本庁農村整備課 水土里ネット島根	
14地域	7市町	10機関	



情報交換会の様子

地域活動支援

各棚田組織で実施するイベントやPR活動の支援を行っています。

【活用事例】



田んぼの学校活動支援
(雲南市 山王寺)



ワークショップの開催
(雲南市 山王寺)



ヨズクハデライトアップ
(大田市 ヨズクの里)



ヨズクの里フォーラム開催
(大田市 ヨズクの里)

棚田PR活動

各種イベントへの参加やパンフレットを作成し、棚田地域での取組等を広くPRする。

【しまねふるさとフェア】



- ・棚田米すくい取り
- ・棚田米販売
- ・オーナー制度PR

- ・活動パネル展示
- ・棚田保全に関するアンケートの実施

【しまね棚田元気ネット】



ホームページによる
活動情報等の発信

【しまね棚田めぐり旅】



棚田パンフレットを
作成し情報を発信

地域活動支援

各棚田組織で実施する交流活動やPR活動の支援を行っています。

【活用事例】



棚田カードの作成
(県内)



オーナー募集チラシ
(邑南町 神谷)



イベント用法被の製作
(邑南町 羽須美)



展望台階段、手摺の補修
(吉賀町 大井谷)



案内看板の設置
(浜田市 都川)

道府県	活動名
秋田県	里地里山保全活動支援事業
山形県	やまがたの棚田スタンプラリー
栃木県	中山間地域人材養成実践講座
新潟県	首都圏情報発信棚田遺産PR事業
福井県	都市農村交流事業の企画・実施
京都府	教育実践パートナーシップ
兵庫県	ひょうごの棚田保全・活性化事業
奈良県	農村振興シンポジウム
和歌山県	和歌山県農業農村活性化支援モデル事業
福岡県	中山間応援サポーター活動
長崎県	イノシシ捕獲技術研修会（長崎会場）
熊本県	つなぐ棚田遺産PR
大分県	水土里ウォーキング大会

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	秋田県	市町村名	県内全域	基金名	棚田基金
活動名	里地里山保全活動支援事業				
活動年月日	令和4年4月～令和5年3月				
活動主体	秋田県、「守りたい秋田の里地里山50」認定地域保全組織				
協力団体等	里地里山サポーター（企業、一般住民等）				
活動参加者	里地里山サポーター（企業、一般住民等）				
活動目的	里地里山地域の保全と啓発普及				
活動概要	<p>【保全活動】 地域の保全組織と里地里山サポーターによる協働活動（体験交流活動等）を実施した。</p> <p>【啓発普及活動】 本県の里地里山が果たしている役割や魅力等を周知するため、PR活動等を実施した。</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>プロサッカーチームホーム会場での里地里山地域のPR活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>あきたの美しく豊かな農村づくり写真コンクールの開催（里地里山部門）</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>体験交流活動（ダリア植栽、田植え）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>啓発普及パンフレット</p> </div> </div>				
事業成果	事業及び活動により県内にある美しい景観や貴重な地域資源を持つ地域の魅力がより多く周知され、認定地域の活性化が図られた。				
連携事業					
対象経費	需用費、会場使用料、その他（活動支援経費）				
総活動費用	4,128 千円	うち基金からの支出	3,378 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	山形県	市町村名	-	基金名	棚田基金
活動名	棚田カレー				
活動年月日	令和4年7月12日から令和4年8月14日				
活動主体	山形県				
協力団体等	遊学館IL BULU、蔵王上野の棚田				
活動参加者	棚田カレーを食べに来られた方				
活動目的	棚田米の消費拡大、交流人口の拡大				
活動概要	<p>棚田米の消費拡大につながり、棚田を訪れる観光客等に提供できるメニューとして考案した『やまがたの棚田カレー』を、カフェレストランIL BLU（イルブル）遊学館のオリジナルバージョンにて提供した。お米は、山形市蔵王上野の棚田米（はえぬき）を使用した。『やまがたの棚田カレー』は、県内のものづくり技術を活用し製作した、ライス型で型取った棚田の形をしたご飯が特徴。</p> <p>また、里山・棚田の魅力をたくさんの方に知っていただくため、IL BULUと同施設内にある県立図書館と連携し、「やまのよもやま」企画展示に「たなだ」コーナーを設け、棚田の関連本を集めて展示した。</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>棚田カレーチラシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(裏面) ライス型作製</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>やまがたの棚田カレー (IL BUL)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>メニュー (IL BUL)</p> </div> </div>				
事業成果	棚田カレーは28日間で291食提供され、棚田米の消費につながった。また、やまがたの棚田カレーのほか、県立図書館での連携展示をつうじて、利用者や消費者にやまがたの棚田地域の魅力を伝えることが出来た。				
連携事業	県立図書館連携展示				
対象経費	需用費(棚田米購入)				
総活動費用	20 千円	うち基金からの支出	20 千円	X	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	栃木県	市町村名	中山間地域の市町	基金名	ふる水・棚田両基金
活動名	中山間地域人材養成実践講座				
活動年月日	令和4年4月～令和5年3月				
活動主体	県（委託）				
協力団体等					
活動参加者	県、市町、地域団体、ボランティア活動希望者				
活動目的	中山間地域の活性化を担う人材を対象に、魅力ある地域づくりに必要な基礎知識や技術、地域の魅力を効果的に発信する手法を学ぶための研修会を開催				
活動概要	<p>①地域づくり団体パワーアップ研修（5回） 対象：農村環境保全等の地域活動に取り組む（又は予定している）地域団体 目的：持続的な組織運営体制、安全・安心な事業実施体制構築、地域団体間ネットワーク形成 内容：地域の現状分析・課題整理、地域づくり事例紹介、リスクアセスメント、リスクマネジメント、ボランティアコーディネーション等</p> <p>②農村の未来を支えるボランティア研修（2回） 対象：農村環境保全等に取り組む（又は予定している）ボランティア 目的：ボランティアの地域理解、技術習得による活動意欲向上 内容：「中山間地域の現状」「地域の取組とボランティアの力」に係る講習、作業・安全技術実習等</p> <p>③農村魅力発信発見若者レポーター養成講座（3回） 対象：高校生、大学生、20代の若者 目的：中山間農村地域で活動するボランティアの更なる獲得に向けた、農村地域の魅力を発信する「若者レポーター」の養成 内容：取材のコツ・記事作成技術に係る講習、地域訪問による情報収集、インタビュー、記事作成・ブラッシュアップ等</p>				
実施状況	 <p>地域づくり団体 パワーアップ研修</p> <p>講習の他、ワークショップを通じ、自らの地域の課題を把握するとともに、今後の取組について議論された</p>	 <p>農村の未来を支える ボランティア研修</p> <p>機械の正しい使い方が身につき安全・安心かつ意欲的に活動に参加できるようになった</p>	 <p>農村魅力発信発見 若者レポーター養成講座</p> <p>地域外の若者の視点で、地域の魅力を発信できたことに加え、若者と地域の関わりづくりにもつながった</p>		
事業成果	<p>①について：9団体21名が参加し、地域組織の組織力・事業運営力の強化につながるとともに、ワークショップや意見交換を通じ団体間の交流が図られた。</p> <p>②について：28名が参加し、活動に必要な草刈機の扱い方や、地域に入る上での心構えなど、基本的な知識や技術が習得された。また、参加者間の交流が図られ、活動意欲の向上につながった。</p> <p>③について：10名が参加し、自らも協働活動に参加しながら地域団体やボランティアへの取材を行ったことにより、4地域について9人が若者の視点で地域の魅力を発信した。</p>				
連携事業					
対象経費	委託費				
総活動費用	2,981 千円	うち基金からの支出	2,981 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	新潟県	市町村名		基金名	棚田基金
活動名	首都圏情報発信棚田遺産PR事業				
活動年月日	令和4年8月19日～令和4年11月25日				
活動主体	新潟県（業務委託）				
協力団体等	—				
活動参加者	—				
活動目的	棚田での農業体験を中心にした棚田紹介動画をYouTubeで配信する。チャンネル登録者数を有するチャンネルで配信することで、視聴数が期待できる。棚田地域での農作業や交流、棚田米の試食などを通じて、一般の人が共感できる動画を配信することで、広く情報発信を行う。				
活動概要	<p>新潟県の棚田の魅力を知ってもらい、多くの方から棚田の保全活動に参加していただくため、棚田地域の美しい景観や棚田オーナー制度などの取組を情報発信しています。</p> <p>ユーチューバーが県内の棚田（佐渡市小倉千枚田※）で稲刈り体験に参加し、その様子が公開されました。棚田地域に関する情報発信を行うことで、広く一般に情報発信を行いました。</p> <p>※小倉千枚田：急傾斜で細長い田が均等に波打つように並んでいるのが特徴の棚田。棚田オーナー制度を行って管理・保全活動に取り組む。田植え、稲刈りは佐渡島内外からオーナーが参加。令和4年3月、農林水産省「つなぐ棚田遺産」に認定。</p>				
実施状況	 <p>【人生初!!】佐渡島でソロキャンプ泊と棚田で稲刈り体験【徒歩女子】新潟県 小倉千枚田 (YouTuber 徒歩キャンプいずみ)</p> <p>バックパックを背負って日本各地を巡り、旅とキャンプの様子を発信しているユーチューバーが、初めて佐渡島を訪問。「小倉千枚田」で稲刈りを体験し、地域の方と交流し、夜は新米でキャンプする様子が紹介されています。</p>				
事業成果	再生回数が約20万回（令和5年3月末）を超えるなど、一般の方への周知を図ることができた。この動画をきっかけに棚田の魅力を伝えられるよう、ホームページなどを通じた情報発信に役立てる。				
連携事業	—				
対象経費	委託料				
総活動費用	1,485 千円	うち基金からの支出	1,485 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	福井県	市町村名	県内全域	基金名	棚田基金
活動名	都市農村交流事業の企画・実施				
活動年月日	4月～3月（通年）				
活動主体	（公社）ふくい農林水産支援センター、ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク				
協力団体等	ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク会員				
活動参加者	グリーンツーリズム活動に関心のある都市住民等				
活動目的	都市農村交流の推進による交流人口の増加				
活動概要	パンフレット等による県内外への福井県の農泊に関する情報発信や、気軽に農村体験ができる「里山里海湖（さとやまさとうみ）体験講座」、県内の農村体験を特定の月に集中して行う「エコグリーンツーリズム月間」実施等により、都市と農山漁村のコーディネートを行う。				
実施状況	 <p>農泊や体験イベント等の情報発信のパンフレット</p>   <p>エコグリーンツーリズム月間(竹で炊飯体験) 里山里海湖体験講座(苔テラリウム作り体験)</p>				
事業成果	<p>コロナ禍の中、マイクロツーリズムとして県民に県内の農山村地域を訪れてもらい、農作業体験等を楽しむことにより、地域住民との交流が進んだ。</p> <p>【事業成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信用のパンフレット作成部数 2,000部 （県内の観光案内所、道の駅、旅行会社、県東京事務所等で配布） ・里山里海湖体験講座の講座数 計 20回開催（参加者 211人） ・エコグリーンツーリズム月間中の体験数 計 27体験（参加者 1,266人） 				
連携事業					
対象経費	取組みをPRするための人件費、事務費等				
総活動費用	8,682 千円	うち基金からの支出	8,682 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	京都府	市町村名	京丹後市	基金名	ふるさと・棚田支援事業費
活動名	教育実践パートナーシップ				
活動年月日	令和4年7月8日(金)				
活動主体	京都府立丹後緑風高校久美浜学舎				
協力団体等	丹後地区森林組合、京都府丹後広域振興局農林商工部森づくり振興課				
活動参加者	2年生7名、3年生9名、教諭2名				
活動目的	京都府立丹後緑風高校で実施する「松林再生プロジェクト」は、現地学習を通して地域・自然について考えることを目的としている。				
活動概要	<p>京丹後市久美浜町湊宮地区の松林にて、平成28年2月に移植したクロマツの手入れ及び生育調査を実施した。下草刈りと生育調査は例年実施しているが、令和4年度はさらに間伐も行った。植樹した樹木が生長することで樹間が狭まってきていたので、作業通路を確保する観点から列状間伐を実施した。</p> <p>また、2年生の生徒に対して、森づくり振興課担当者から、松林の保全や病害虫（マツクイムシ）に関する講義を現地で実施した。</p> <p>丹後緑風高校では、年に2回、松林の手入れを行いながら、収集した成長データを用いて、生徒による課題研究が行われる予定。</p>				
実施状況	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px;"> <p>2年生と3年生が協力して箱尺・脚立を使って1本ずつ松の樹高を測定しました。</p> <p>列状間伐で伐採した松を実験林から運び出しました。</p>  </div> </div>				
事業成果	毎年継続して収集している松の生育データについて測定できた。現地での実習を通して、地域の松林が担う防風林機能や景観形成機能について再認識してもらえた。				
連携事業					
対象経費	第1回：26,840円(貸し切りバス代)				
総活動費用	27千円	うち基金からの支出	27千円		
今後の課題・予定等	<p>来年度活動未定。</p> <p>丹後緑風高校久美浜学舎校長先生から、R5年度からは当該実習の実施が困難であることの相談あり。生徒は農業コースを履修中で、林業分野の準備時間の確保ができないことが理由。森づくり振興課では、教育関係(学校・ボーイスカウト等)を中心に、久美浜町湊宮地区の松林保全に関心を持つ団体を探している。</p>				

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	兵庫県	市町村名	県下全域	基金名	棚田基金
活動名	ひょうごの棚田保全・活性化事業				
活動年月日	通年（R4. 4. 1～R5. 3. 31）				
活動主体	県、（公社）ひょうご農林機構				
協力団体等	兵庫県多面的機能発揮推進協議会等				
活動参加者	つなぐ棚田遺産認定地区及び多面的支払交付金活動組織構成員 等				
活動目的	棚田保全・活性化の活動体制づくりを行うため				
活動概要	ひょうご水土里のふるさとフォーラムを「持続的な地域づくり～棚田から見えるこれからの農村～」をテーマに開催し、「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された棚田地域での取組みを例に、地域内外の多様な参加者や世代との交流を通じた持続可能な農村社会の実現に向けて啓発をおこなった、				
実施状況	 <p>基調講演 「都市交流と大学生連携による持続可能な棚田保全と地域づくり」 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 理事長 中里 良一</p>   <p>パネルディスカッション ・つなぐ棚田遺産認定地区取組紹介等</p>  <p>パネル展示 ・つなぐ棚田遺産取組紹介 等</p>				
事業成果	本会場の定員240名に各県民局サテライト会場の参加者を加えた計430名の参加があり、棚田地域の活動や保全の啓発に寄与した。				
連携事業	—				
対象経費	（公社）ひょうご農林機構への委託費等				
総活動費用	1,600 千円	うち基金からの支出	1,600 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	奈良県	市町村名		基金名	棚田基金
活動名	農村振興シンポジウム				
活動年月日	R5年2月4日				
活動主体	奈良県				
協力団体等	奈良県多面的機能支払推進協議会				
活動参加者	一般				
活動目的	農村資源の保全活動及び都市農村交流の活動の活性化				
活動概要	<p>コロナ禍で農村共同活動の自粛や都市農村交流活動が停滞している中、棚田地域を含む農村地域の魅力の再認識及びコロナと共存した活動再開のきっかけづくりとして、また農村における都市農村交流を含む地域の活性化に向け、活動の質的向上を図るとともに都市住民に対し農村地域への理解を深めてもらう目的でシンポジウムを開催。</p> <p>①優良組織表彰 ②基調講演 「笑い飯 哲夫の農業のススメ～農村地域には魅力がいっぱい～」 笑い飯 哲夫氏 ③パネルディスカッション 「農で奈良を元気に～農村と都市を結ぶ架け橋をめざして～」 ④多面的機能支払交付金活動組織講習会 「農業機械の安全使用について」</p> <p>※会場の外では、地域の特産品等を販売する「天平マルシェ」を同時開催</p>				
実施状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>会場風景</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>基調講演</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>パネルディスカッション</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>天平マルシェ</p> </div> </div>				
事業成果	都市住民を含め約400名の参加があり、参加者からは「農村の魅力がわかったような気がする」「都市農村交流活動に参加したい」などの声もあり、農村地域への理解を深めることができた。				
連携事業	多面的機能支払交付金				
対象経費	委託費				
総活動費用	5,047 千円	うち基金からの支出	5,047 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	和歌山県	市町村名	海南市	基金名	ふる水・棚田両基金
活動名	農業農村活性化支援モデル事業				
活動年月日	令和2年8月～令和5年3月				
活動主体	援農市坪				
協力団体等	FROM FARM（コーディネーター）				
活動参加者	地域住民（非農家も含む）、協力団体、援農者				
活動目的	全国から農業に興味ある若者を援農者として受け入れ、繁忙期の農業者の労働力補完を行うとともに、都市部の若者と農村部の関係人口を創出し、移住・就農のきっかけとする。				
活動概要	<p>援農者を繁忙期の2か月に渡って受け入れられるよう、地域内の空き家を探し持ち主と交渉して借り上げ、援農者にシェアハウスとして提供した。</p> <p>また、援農者と地元農家の調整を行うコーディネーターを置き、コーディネーターを中心としてSNS等を用いた援農者の募集や援農者の生活面のサポート（買い物支援等）を行った。きめ細かな援農者への支援を行うことで、援農者の満足度が高く複数年援農に参加するリピーターや口コミによる新たな援農者の確保につながった。</p> <p>援農者が地域に溶け込みやすくするため、また地域住民の援農への理解を深めるために援農者と地域住民（非農家も含む）の親睦会を開催した。</p>				
実施状況	 <p>①援農者と地元農家</p>		 <p>②援農者の農作業の様子</p>		
	 <p>③援農者のシェアハウスでの様子</p>		 <p>④援農者と地域住民の交流会</p>		
事業成果	<p>事業実施期間の3年間で延べ82人の援農者を受け入れ、農業の維持につながった。また、援農期間終了後に1人が市内に移住した。</p> <p>市坪地区での取組が周辺地域にも広がり、令和4年度は市坪地区がある海南市旧下津町で40世帯の農家が64人の援農者を受け入れた。</p>				
連携事業	なし				
対象経費	委託費				
総活動費用	1,661 千円	うち基金からの支出	1,000 千円	✕	

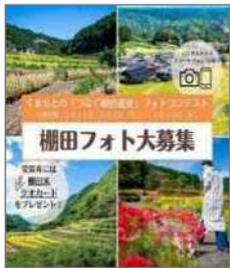
【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	福岡県	市町村名	東峰村竹地区	基金名	ふる水・棚田両基金
活動名	中山間応援サポーター活動				
活動年月日	令和4年10月22日				
活動主体	福岡県				
協力団体等	筑紫女学園大学及び福岡市おやじの会				
活動参加者	中山間応援サポーター及び大学生、福岡市おやじの会のメンバー				
活動目的	中山間地域の農地及び集落機能の維持のため、中山間地域の住民と都市部等の住民との交流を推進し、中山間地域の保全及び活性化を促進する。				
活動概要	<p>※都市住民等を対象として中山間地域でのボランティア活動に従事する「中山間応援サポーター」を組織し、集落等から要請のあった各種共同活動の支援を行い、農地保全と地域の活性化を図るもの。</p> <p>【今回の活動概要】 棚田百選に選定された竹棚田の石積みライトアップイベントの準備（棚田へLEDライトの設置やステージの設営）</p>				
実施状況	 <p>今回の活動は、多くの大学生に参加してもらうことができ、非常に活気のある活動となった。具体的な作業内容は、各エリアごとに分かれて、LEDライトの設置、配線、コンセントの保護や草刈りなどを行った。 その結果、ライトアップ当日は、福岡県東峰村竹地区で日本棚田百選の一つに選定され、約400年の歴史があるとされる約400枚の棚田の石積みライトアップすることができ、幻想的な風景を創りあげることができた。</p>				
事業成果	令和4年度は中山間応援サポーター活動を計13回実施し、計159名の参加者の方々に中山間地域を知ってもらう機会を設けることができた。				
連携事業	なし				
対象経費	旅費、需用費、その他（サポーターの保険料）				
総活動費用	1,129 千円	うち基金からの支出	1,129 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	長崎県	市町村名		基金名	棚田基金
活動名	イノシシ捕獲技術研修会（長崎会場）				
活動年月日	令和5年2月24日				
活動主体	長崎県農林部農山村振興課				
協力団体等	一般社団法人長崎県猟友会				
活動参加者	狩猟免許（わな猟）取得者 10名				
活動目的	狩猟免許（わな猟）を取得した者の本県の第二種特定鳥獣であるイノシシの捕獲技術向上を図ることで、鳥獣被害軽減に資するため。				
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法令等研修 県職員が講師となり、鳥獣保護管理法等の解説や違反、事故事例の紹介を行い、法令遵守の意識醸成を図った。 2. わなを使った説明・実技 長崎県猟友会の講師が、わなの実物を示しながら、わなの仕組みなどについて講義を行った。また、屋外にてくくりわなの設置にかかる実演を実施し、わなのかけ方のコツや注意点などをレクチャーした。 3. 止め刺しの実演 箱わなにかかったイノシシ（生体）の止め刺しを、電気止め刺し器と刃物で実演し、止め刺し時のコツや注意点などをレクチャーした。 				
実施状況	 <p>1. 法令等研修の様子</p>	 <p>2. わなを使った説明の様子</p>	 <p>2. わなを使った実技の様子</p>	 <p>3. 止めさしの実演の様子</p>	
事業成果	同様の研修会を長崎会場のほか2会場で実施し、計46名が受講した。受講者からも多くの質問があり、わなによる捕獲技術の向上、ひいては、鳥獣被害軽減に資することができた。				
連携事業					
対象経費	委託費				
総活動費用	1,798 千円	うち基金からの支出	1,798 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	熊本県	市町村名		基金名	棚田基金
活動名	つなぐ棚田遺産PR				
活動年月日	令和4年7月21日～令和5年2月28日				
活動主体	県（委託先：株式会社熊本日日新聞社）				
協力団体等	熊本県内つなぐ棚田遺産認定17地域				
活動参加者					
活動目的	<p>「つなぐ棚田遺産」に認定された熊本県内の棚田を広く周知し、理解促進を行うことを目的に、「つなぐ棚田遺産」認定棚田の周知内容調査、インターネットを通じた情報発信、周知啓発冊子の作成、情報発信イベントの実施など、「つなぐ棚田遺産」認定棚田の継続的な活動を支援することで棚田地域の活性化を図った。</p>				
活動概要	<p>(1) 「つなぐ棚田遺産」認定棚田地域の周知内容調査 つなぐ棚田遺産に選定された棚田を広く周知し、理解促進を図るための基礎情報の収集として、①市町村へのアンケート調査、②市町村への追加調査（メールおよび電話）、③現地訪問調査、を行った。</p> <p>(2) インターネットを通じた情報発信 つなぐ棚田遺産に選定された棚田を広く周知するために、インターネットを用いて棚田地域やPRイベント、フォトコンテストの情報を発信した。</p> <p>(3) 周知啓発冊子の作成 「(1) 「つなぐ棚田遺産」認定棚田地域の周知内容調査」を基に、周知啓発冊子「つなぐ棚田遺産 in KUMAMOTO ガイドブック」を制作した。</p> <p>(4) 情報発信イベントの実施 「つなぐ棚田遺産」選定棚田地域の活性化や多面的機能等の理解促進を目的に、棚田地域の魅力や農産物等をより多くの方々に伝える「つなぐ棚田遺産展～新春・棚田の恵み～」を開催した。</p>				
実施状況	<p>(1) インターネットを通じた情報発信 17地域棚田の認知度向上および安全で効率的な棚田訪問につなげることを目的に、各棚田の紹介およびイベントやフォトコンテストなどの告知を掲載する特設サイトを開設。トップページに17地域棚田の位置紹介の地図を掲載。地図の番号から棚田紹介ページに移動できる。各棚田紹介ページにGoogleマップを用いたナビゲーションツールを掲載。パソコン、スマートフォンで経路やビューポイント、駐車スペースの確認が可能。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) 周知啓発冊子の作成 ガイドブックは①棚田への興味・関心や親しみを持ってもらうこと、②来訪者にわかりやすく安全に棚田地域を訪れてもらうこと、③棚田地域の方々に迷惑をかけることを防ぐこと、を考慮し制作。各棚田の魅力・特長の紹介にあわせ、「ビューポイント」「駐車スペース」「物産館やトイレ」「観光スポット」などの情報を掲載し、来訪者が地域の方に配慮しつつ、楽しく棚田めぐりをしたくなる気持ちの醸成を図った。また、農業や棚田の多面的機能を紹介し、農業の継続の重要性を伝えた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>				



(情報発信イベントの実施開催概要)

◎開催日時：令和5年1月14日(土) 10:00~16:00

◎開催場所：びぶれす広場(熊本市中央区上通町2番)

◎開催内容：・つなぐ棚田遺産選定2地域(菊池市滝棚田、山都町白糸台地棚田)の販売ブース

・つなぐ棚田遺産紹介パネル、棚田の多面的機能紹介パネル(A1・各1枚)掲示

・つなぐ棚田遺産選定17棚田の紹介ページ(A2)掲示

・フォトコンテスト最優秀作品(A3・1枚)、優秀作品(A3・4枚)、佳作(A4・20枚)の掲示



事業成果	SNSへの1月から2月のアクセス数106,722回、イベントへの参加者(アンケート回答者)数93名であり、SNSによる広報、イベント等を開催することで、「つなぐ棚田遺産」の都市住民への認知度向上と棚田の保全活動等への理解促進につながった。			
連携事業				
対象経費	委託費			
総活動費用	4,120 千円	うち基金からの支出	4,120 千円	✕

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	大分県	市町村名	—	基金名	ふる水・棚田両基金
活動名	水土里ウォーキング大会				
活動年月日	令和4年5月～12月の間 計5回				
活動主体	大分県				
協力団体等	NPO法人大分県ウォーキング協会				
活動参加者	計 510名				
活動目的	大分県の農業水利施設や棚田について、各世代の方々へ関心をもってもらう				
活動概要	<p>県内の農業水利施設や棚田をコースに盛り込んだウォーキング大会を実施 大会運営については、県内のNPO法人に委託 全5回・5コースで実施（5/8（玖珠町・山浦早水棚田）、6/25（豊後高田市・夷谷）、 9/11（別府市・内成棚田）、10/9（中津市・御澄池・大井手堰）、12/11（佐伯市・小田 井堰・戊申ため池） 参加者の内、完歩者には完歩証を贈呈</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>大会開会式</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>PRチラシ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>完歩証</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>完歩証</p> </div> </div>				
事業成果	5地区で計500名を超える参加があり、農業水利施設や棚田への関心の高さがうかがえるとともに、多くの方に直接見て、肌で感じてもらうことで、より一層興味を持ってもらうことができた。				
連携事業	なし				
対象経費	委託費（運営スタッフ人件費、完歩証作成費）				
総活動費用	163 千円	うち基金からの支出	163 千円	✕	